

第三節 各費目別生活指導

生計豫算が出来たならば費目別検討に入らねばならない。

第一項 飲食物費—栄養指導

一口に飲食物費と云つても、米麥等の主食物から、副食物の魚類野菜類、肉牛乳、漬物その他加工品、調味料、嗜好品等等であるが、此の加工品の中にも何百種と云ふ種類があり、味噌でさへ何種類とあるのである。故に商品知識に乏しき我國の主婦の現状に於ては、物の選定を消費経済的にすることは困難であつて、外側のビンやレツテルや、廣告費を喰はされてゐるような事も珍らしくないのである。よく料理では高價な鰯と安價な鰯の例で栄養は鰯の方があることを聞かされるのであるが、これは今日までの料理は栄養と云ふよりは味や體裁が重く見られて來た事にもよるのである。故に食事に對する國民の考へ方を根本的に變へねばならなくなつたと申してもよいであらう。又料理の仕方にも於ても、栄養の知識乏きため甚しく不合理であり技術的にも極めて幼稚の域を脱してゐないのである。栄養學的研究によると調理上の無駄(ロス)が二割近くあると云はれてゐるのである。事變以來物資の不足から、栄養問題も漸く重要

	重 勞 作	蛋 質 グ ラ ム	90	100	/	90	100
31—50	輕 勞 作	熱 量 カ ロ リ ー	1900	2100	1750	1900	2100
		蛋 質 グ ラ ム	70	80	65	70	80
	中 等 勞 作	熱 量 カ ロ リ ー	2300	2500	2100	2300	2500
		蛋 質 グ ラ ム	80	85	70	80	85
	比 較 的 的 勞 作	熱 量 カ ロ リ ー	2550	2750	/	2560	2750
		蛋 質 グ ラ ム	85	90	/	85	90

視されるに至り、これに伴つて調理の仕方、食べ方等に至るまで強く注意を喚起せらるるやうになつたので、心ある家庭に於ては實によく調理をなし、又廢棄物も利用するやうになつて來たが、一般には未だ充分であるとは云へない現状にあるので、此點町會等が中心となつて常會單位に栄養指導を具體的にするならば徹底するであらう。殊に蛋白質、炭水化物、脂肪、無機成分、ビタミンの五大栄養素に就いての概念を教へこれが標準必需量及調理上の注意等を組織的に系統的に教へ導くことである。

飲食物費と栄養内容とは同一に非ず。

此處に特に注意すべきことは飲食物費と栄養内容とは必ずしも一致するものではないと云ふ點である。例へば飲食物費は各世帯共(何れも標準家族として)六〇圓づつ毎月支出してゐるとしても、各A・B・C・D・E・F・G・H・と云ふ世帯が攝取してゐる栄養内容は異なるのである。AとCとDはカロリーでは標準に達してゐても、蛋白質が不足してゐるとか、BとEとGとは蛋白質は標準に達してゐるが、カロリーが不足であるとか、FとHは蛋白質、カロリー共不足してゐると云つた事實は、栄養分析をしてみると、各所に發見するのである。筆者の屬する労働科學研究所の生計賃金研究室に於て、生計調査せる東北のA鑛山及B鑛山の栄養分析の結果は、この事が明かになつたのである。これは栄養献立を持たず、只八百屋に行き、ある蔬菜を買ひ、魚屋に行き、好きな物を買つて作られる所の、その時勝負式の調理だからである。勿論事變後は思ふような栄養献立の品物が入手出来ない事が多いであらう。然し工夫さへすれば品数が少くなつたとは云へ、外國などに比較すれば多種多様な日本に於ては、まだまだいくらでも方法は生れるものだと思ふのである。否品数が少くなればなる程飲食物品が一方に邊して來れば來る程栄養献立は重要である。栄養献立により品物が入手出来ぬ時は、その缺陷を補ふ對策を眞剣に考へるやうに、凡ゆる創意、工夫こそが要求されるのである。

献立表を作れ

献立表は一週間分位づゝ作製することが適當であらう。然し栄養献立は栄養知識なきものには無理であるが故に、その地方の野菜、魚類等を参酌した地方別(職業別にも必要部面があれば)栄養献立を数種類づゝ作製し、町會常會を通じて配布し、或は新聞雑誌、ラジオ等によつて一週間分位づゝの献立豫定表を紹介するようにしたならば最も効果的であらう。又此献立表によつて配給物資の入手が圓滑に行くように、市役所、區、町、農會、配給機關、警察等が協力するならば、國民栄養の合理化は相當期待されるであらう。尙注意すべきことは活用、利用、保存、手入れの問題である。事變以來物資の不足は配給によるものが次第に増加して來てゐるが、配給機關や手不足等の關係から、毎日用ふる量だけが配給されることなく、二日分、三日分が配給されることも珍しくない。こうした場合一度に使用せず、栄養を考慮して保有せねばならぬ場合がしばしばあるが、保存の方法を知らぬために、折角の品物も腐敗せしめたり價値を半減せしめたりすることも少くないのである。故に保存の方法や、活用利用の方法を指導することも亦必要な事である。飲食物費の眞の節約方法は只安い材料で料理をすることのみではない。むしろ與へられた材料の性質をよく知つて、その栄養性質を充分に生かして使ふことである。又廢物を出さぬやうにするとか、食ひ残りを出さぬやうにするとか、戸棚の中に仕舞ひ忘れて黴を生やさぬやうにするとか、外食を極力さけるとか、細かい點にまで科學的知識を以て、無駄のないやうに注意することが、眞の飲食物費の節約である。最近食糧不足から國民學校の児童や、中等學校の生徒がそばや、すしや、その他の食堂で喫食するものが目立つて來たと新聞が報じてゐるのであるが、これは結局家庭に於ける不足を補ふために止むを得ず行はれるのであつて、實際國民全體が食べる量は、自宅で食へるか飲食店で食へるか相違であらう、異るところは、この結果は國民の生活費をいやでも上昇せしめると云ふ點である。

政府當局が眞に國民生活費の切り下げを願ふならば、こうした矛盾を是止せねばならぬのである。(栄養献立表略)

第二項 住居の住み方、家具の使ひ方指導

住居は被服や飲食物と等しく、人類が生存するための必然的要求から生れた人間の肉體及精神の保護所であり、生活の本據である。生活的には被服と同様に寒暑、風雨、塵埃、濕氣等の天然的障壁から被護し、或は人命を護る役目を果す場所であり、又保健上の栄養素とも云ふべき空氣とか日光とかを受ける場所でもある。又心身の快復と慰安休息の場所である。故に最も住心地よき場所でないならぬ。然るに現在我國民の大多數、特に都市生活者の大部分の住居は保健的文化的乃至は社會的生活環境としては、極めて缺陷の多いものがある。特に事變以來速に建設された大都市の住居には甚しい。併し乍ら住居は生活の根城であるが故に、只雨さへしのげばよいのではない。少くとも生活の本據であると云ふ自覺を持ち得ることと、明日の勤勞再生産のために充分休養の出来る最低限度の住居が確保されねばならない。事變以來住居の拂底は寢床の交替制さへ出現せしめるに至り、甚しく過密となり、不健康の温床とさへなるに至つてゐるのである。こうした時代に於ける住み方の指導は極めて大切である。

住居の拂底が密住となることは必然の勢ひであるが、此當然起る密住に對しては住み方に細心の注意を拂ひ此の不健康な状態を補はねばならない。例へば今迄八疊間に四人であつたものが五人、六人も就寝せねばならぬような場合には、先づ室内の箆笥、机その他の家具の置場所、配置を研究して出来るだけ屋内を廣くすることに努めると同時に窓、障子、戸等に對して、保健的注意を拂ふようにすることである。又出来る丈室内に日光が入るやうに工夫すると同時に蒲團、敷布、その他用具は努めて日光にさらして紫外線を吸収せしめるが如き方法を探らねばならない。又下水、

便所、その他不潔場所に對する衛生處置をなすと同時に、臺所の如きは極めて清潔を保持することが必要である。

次に大切なことは家を大切にしよう心掛けることである。家を大切にするためには、家に對する愛着を感じ、永く住みたいと云ふ定住心がわいて來なければならぬ。然し定住心を持たしむるためには住居そのものに定住性を持たしめねばならぬ。少くとも定住する気持ちは自分の家と云ふ氣持ちが出て來なければわいて來ないのである。自分の家と云ふ氣持ちは、人の住むに足るだけの設備と環境とが備つて居らねばならぬ。そこに始めて生活の本據として腰をおち着ける氣持が起り、良い家があつたら、安い家があつたら引越そうと云ふような消極的借家人根生がなくなり悪い處は自分から直して行くと言ふ積極性が出て來るのであり、家を大切にしようになるのである。然るに今日までの住居殊に貸家のために建てられた住居は家賃を取るための疊敷を一疊も多くとると云ふ間取りのとり方であるために、住む者の便利とか、衛生とかについては科學的に考へられてゐないものが多く、敷地の如きも環境等は第二第三で地代の安い所が第一條件とされるが故に、甚しい低地であつたり、太陽の日の目をみないような濕地帯であつたり、下水の排水は殆ど出來ないような不衛生地區が多かつたりしたのである。而してそこに建てられる家はお粗末なバラツク同様のものが多く、而も玄關、床間がないのはまだよいとして、臺所、便所のない家が無數にあるのである。こうした家が安月給では住みきれぬような家賃である。これでは定住心は出て來ないのである。住居が生活の本據である以上、臺所、便所は勿論少くとも人が住むに必要な保健上から、社會生活上からみた、最低限の住居は是非確保されねばならない。(最低限の住居については勞研發行「最低生活費の研究」参照)

定住心が出て來れば、家は大切にせよと云はなくとも大切にしようになるものである。又家を大切にする人は住み方の工夫を色々とするものである。

家に於ける住み方の根本とも云ふべきことを擧ぐれば、先づ第一に神棚、佛壇を正しく祀ると云ふことである。神や先祖と共に同じ家に暮すことの出來ることは、日々の生活を正しく向上振起せしむるに足るものである。第二には部屋の使ひ途を明確にすると同時に、その使ひ途によつて家具をその使用目的に添ふて配置し、戸棚の如きも、その使用目的に叶つた作り方をするとか、段をつけて布團その他の整理を極めて便利にするとか、戸棚の活用工夫をこらすことである。又家具は使ひよいものを出來るだけ數少く持つようすることが大切で、ガラクタを所狭き部屋におくことは部屋の利用價値を甚しく減少せしむるものであるから充分考へねばならない。

次には整理整頓及清掃の合理化である。家の中が亂雑である位落着かぬものはない。キッチンと整理整頓された家は何となく清楚な感じがして心美しいものである。事實家の整理整頓の出來てゐる人は職場までよく整つてゐるものである。同じ長屋であり乍らAの家は小綺麗であるのにBの家は三年四年も古い家でもあるかの如く思はれることがある。同じ長屋で三年四年もの開きを示すのは住み方の上手下手によるものである。故に住み方の上手下手は本人の生活に直接影響することを知らねばならない。又住居及家具の手入れは絶えず破損の大きくならない内にすることが必要である。狭い家では廊下の上とか、縁の下とかその他空間の利用を考へ活用することも必要であらう。又懸軸や額縁等自製自畫のもので結構であるから、簡素の内にもゆかしい嗜みを忘れぬように心掛けるならば、生活の本據としての落つきが一層強固なものとなるであらう。

第三項 被服身廻品の生活指導

(1) 被服の目的をよく知れ

衣服は人間として生理的に社会的に缺く事の出来ぬもので、昔から衣食住と云つて、生活の三大費目の一つとして来たのであるが、衣食住の内被服は最も文化性の多いものである。今被服の目的を挙げれば(1)保健衛生上からと、(2)道徳義禮上からと、(3)裝飾審美上からと、(4)標識類別上からと、(5)生活活動の上からと、(6)偽裝擬態上からの六項目位に分類する事が出来るであらう。(詳細は拙著最低賃金の基礎的研究(37)以下参照)最初被服の目的は外界の氣候に對し、體温を調節し外界からの寒暑風雨を凌ぎ、保護防遮せんとする健康衛生の面であつたと思はれるのであるが、人類の生活の集團化、社會化は次第に秩序保持を要求するに至り、これが被服にまで及ぶに至つて道徳義禮上の必要となり、更に裝飾的な面にまで發展するに至つたのである。住宅の消費は一家の者の共同消費であるが、被服は食物と同じく個別的である。従つて住宅に比しては勿論、食物よりも更に個人的相異の傾向を多分に持ち得るし又持つに至つた。食物の攝取は個人個人によつて嗜好も異り必需量も異なるが、一家で一人一人別別の食事を作るが如きことはない同じ料理を一家の者が健康に應じて食するのである。然るに被服身廻品は同じ家族、同じ年齢、兄弟姉妹であつても各人全く異つたものを着ることも出来るのであり、又實際も千差萬別である。共同的の物は僅かに親のものを子供に兄や姉のものを弟や妹に廻して使用せしめる位のものである。即ちこうした點からも被服は個人性が食や住に比して強く、従つて趣味、嗜好、美的要素に更に自己の地位身分の維持と云つた複雑な要素までも加はるに至り、文化的巾が次第に大となるに至つたのである。而かも此の文化的巾は商業主義の強化につれて、流行と云ふ形になつて際限なく發展して行つたのである。極端なる被服は、被服が裝飾か判斷さへ困難なものまで飛出すに至つた。斯の如き被服の趣味化、裝飾化は、國民生活の被服費を大ならしめるに至つたと同時に、國民の精神生活まで浮薄にし、人形化するにさへ役立つに至つたのである。被服こそ極めて厳しく批判検討されねばならぬものである。

(2) 我國被服の現在と將來

支那事變以來纖維製品の不足を告げ、殊に木綿、羊毛品類が不足して来たので、我國でも昭和一七年より衣料切符制を實施するに至つたのであるが、これは我國民の被服について一大反省の機會を與へたものであつて、これを機會に充分検討すべきであらう。我國民殊に婦人は被服を箆筒の肥料にしてゐるとさへ云はれて来たのであるが、事實下級生活者を除いた多くの國民は、不必要に多くの被服を持つてゐるものが少なくないのである。而も平常着を多く持つのでなく、年に二度か三度しか着ないような晴着が多いのであるから、不經濟此上もないのである。

被服の主要目的を健康及活動、經濟に置くならば、先づ第一に身體を保護するに足るものでなければならぬ。身體を保護するに足るものは保溫性を有するものであること。即ち人體は攝氏三七度内外の恒溫を有するが、この恒溫を保持するに足る被服であることが要件である。この要件に適當な被服はその織物の種類、被服の品質及作り方によつて異なる故に、被服着用に際してはその日の溫度濕度等とも考へ合せて被服の種類や、着重ね枚數を適當に用ひねばならぬのである。よく乳兒幼兒、兒童に對して只厚着をさせればよいかの如くに考へて厚着せしめてゐるのを見掛けるのであるが、こうした人人は被服に對する充分なる知識を持たぬためである。厚着が返つて不健康にせしむる事も珍しくないから充分注意を必要とするのである。被服の通氣度は衛生上大切なものである。即ち皮膚に於て水蒸氣、炭酸瓦斯等新陳代謝より生ずる瓦斯を絶へず排出するを以て、若し衣服に通氣性なきときは(ゴム引、防水布の如き)此等は皆衣服の下に集り、不快を感じるに至る。故に通氣性を有する被服でなければならぬ。通氣性あるものは、保溫上多少の損失はあるが、通氣性なき物に受くる損失とを比較すれば輕きものである。通氣度は布片の氣孔とその厚さに關係を有し、氣孔大なれば従つて通氣佳良であり、厚ければ不良となる。又被服濕潤すれば氣孔内に

水分浸入するを以て空気の交換不良となるを免れない。

衣服に供する織物の繊維は湿度を吸収する性質、即ち濕性水分を取る性質を有するもので、毛絨は殊に此性に富んでゐる。然し既に布片となるものは濕性水分の他に其の織目間に液體の状態に於ける水分を吸収する性を有するもので、これは毛織物が最も少く、木綿これにつき、麻及絹が最も多い。衣服濕潤するときは、乾燥するときとは其趣を異にし、重量を増し且つ織目の間が閉塞せられるを以て、空気の交換を不良にして、熱の傳導を増加し、濕潤せる水の蒸發のため體温の脱却を増加する等、種種の不利の點がある。人體からは成人なら一日に約五・六合の水分を蒸發しており固形物質をも排出してゐるが、之等を被服は吸収してくれるので、皮膚面は常に適當な乾燥状態を保つてゐるのである。故に皮膚に直接觸れてゐる被服は度度取り替へて皮膚の清潔、乾燥を計ることを怠らぬようにせねばならない。殊に足部の濕潤に最も意を用ひ、努めて乾燥状態に保つようにせねばならぬ。又使用に際しては以上に於てみたと如く、原料の如何によつて差があるものであるから、使用目的に応じて材料を選択し作ることが大切である。

衣服が其の材料及仕立に於て適正でなければ保健上は勿論、活動の自由及休息の慰安は充分に得られないものである。然るに現在日本で用ひられてゐる男女の服装は、何れも保健上、經濟上から見ても適正であるとは考へられないのである。袖の長い和服、外國の直輸入そのまゝの洋服、地質の厚い帽子、堅いカラー、不衛生なネクタイ、ベルト、ガーター(靴下止め)コルセット、帯、みやこ腰巻、長襦袢等々の非活動的被服、時代に不適當な被服、身廻品が使用されてゐるのであるが、こうした被服が如何に國民の生活を制限し健康を害してゐるか知れないのである。政府もこの點に顧みる處があつて、厚生省では男子の國民服を制定し、之が普及を計るに至つたのであるが、更に婦人の標準服も制定せんとする氣運にまで至つた事は誠に結構な事であつて、一日も早く非活動、不健康な被服生活から脱却

せねばならぬのである。

而して今後の新らしき時代の被服として意を用ひられねばならぬ事は、

- 第一 衛生的であること
- 第二 活動的であること
- 第三 經濟的であること
- 第四 美的であること

であるが、四項目共兼ね備へることは仲々困難もあるので、先づ重點を第一、第二、第三におかるべきである。而してこれが國民生活への實踐のためには、最低標準被服の基準を決定することが緊要なことである。

(3) 最低標準生活被服基準の決定

被服の最低標準生活の科學的基準を決することは困難の伴ふ問題ではあるが、然し國民被服の規格化單純化を實施するならば最低標準被服基準の決定は必ずしも困難ではない。今日の衣生活の混亂の大きい原因は、最低標準被服生活の基準が示されていないことに基因するのである。今日までは金のあるに任せて着もしない衣類までも買込んで箆笥に仕舞込んでゐたのであるが、決戦下の國民生活に於てはこうした衣生活は根本的に改め、科學的最低生活に順應せしむるよう努力せられねばならぬのである。

(A) 被服の標準化

被服が最も文化的要素の介在することは既に指摘した處であるが、戦時下に於ては徹底的革新を斷行して衣生活の單純化素朴化を圖らねばならぬ、又最も可能である。併し尙且つその文化的要素を十分考慮して生活に禮節を高め稱

洋二重生活の弊を漸次改め、婦女子の勞働力を省くように指導せねばならない。これがために必要なことは被服の規格化單純化である。被服の規格化單純化を圖らずして、只消費規正を強化せんとしても充分なる効果は期待出來ないのである。故に國民の一般服は勿論作業衣に至るまで標準化を圖り衣料の節約を圖ると同時に、國家の衣生活を通じて健康化し、能率化し、經濟化に資さねばならない。

(B) 標準化具體案

戦時下國民の衣生活の具體化のためには少くとも次の如き程度の標準化が實施されねばならない。

1) 國民服

現在の國民服は夏冬同型であるが、我國氣候の特殊性に鑑み「夏服」は特に次の如く改良する。

◎夏服

上衣を用ひず、半袖シャツとし。(少し寒い場合は下に縮シャツを着る)ズボンは半ズボンとする。

職業別例へば官公吏、教員等の如き特に識別の必要ある場合は襟章により區別する。

◎履物

現在俸給生活者學生等の大部分は靴になつてゐるが、最近農村に於ける青年團に於ても靴を用ふる者が増加するに至つたが、然し今日の如く革の拂底時に於て、國民全體が靴にすると云ふことは消費の増大量を來たす恐れがあるが故に職業上或は生活上必要とせざる者、又は農業者商業者家庭内にあるもの、寄宿舎より直ちに職場に通勤出來る者その他之に準ずる者は草履又は下駄(スリッパ式のもの)を考案するも可)を主とするよう指導せねばならない。

2) 學生服

學生服及學帽、カバン等學生用品は一切全國的に統一する。而して學生服は特に中等校以上は大學まで同型とする。戦時に於ても直ちにそのまま利用出來るような(例へば國民服乙型をそのまま制服とするが如き)體制に於て訓練をなすことが必要である。而し女子の制服は國民學校と中等學校以上と型を二種に分ち、中等學校以上の制服は男子同様非常の場合でも活動に差支ないよう考慮したものゝ制定する。勿論女子の制服は活動に便利であると云ふ事のみでなく、保健上の點と美的であることに就いて充分意を用ひたものでなければならぬ。又學帽も同じ丸帽と云ふも多少づゝ型を變へて居り、地質も同一ではない、殊に此丸帽も鐵カブトその他軍事行動の場合等を考慮するときには戰鬪帽が最も適してゐるようであるから、國民校では今日までと同一の丸帽とし、中等學校以上は戰鬪帽一種にし型も寸法も地質も色も全國統一する。現今の學生をみると詰襟服の下にYシャツを着用したり、高價な革カバンを持つ者も多いが、こうした無駄は禁止し軍隊のシャツの如き、或は軍人用のカバンの如き丈夫一式のものに統一するならば、此處に簡素美集團美を發見し、統一ある徹底した、軍隊式訓練も可能であらう。

3) 教員服

a) 男子教員服

教員服は國民、中等、高等、專門、大學等の區別を設けず、一般國民服を用ひ、襟章及帽章に於て區別する。

b) 女子教員服

女子教員服は男子同様國民、中等、高等以上の如き差別をつけず、全國一律に制服を制定する。制服は最も活動的であり、而かも簡素の内にも威厳ある制服たることを主眼としたものたることが條件でなければならぬ。

(實際には洋服に近いものであらう) 學校別の識別を必要とする場合は襟又は徽章により區別する。

4) 婦人國民服

婦人國民服は日常生活に最も快適なる改良服を考案し、之を標準化し、之が着用を指導し、常會その他凡ゆる集會等は極力婦人國民服を着用せしめること。但し婦人國民服は制定されたら明日からでも着用せねばならぬように仕向け、既成の衣類を仕舞ひ込み、新調せしむるが如き事を避け、既成衣類の厚生に必要な場合に國民標準服に作り直さしめて、漸次全部が國民標準服になるように指導すべきである。従つて在來の着物は今後は新規には絶対に作らぬと云ふ自覺にまで徹底せしめることが必要である。

婦人國民服に於ては標準を制定するに止め、色及模様就いてはげげしい極端なるものの外は極端に制限せず、相當の餘裕を残すことが必要であらう。又生地は今日まで商人に於ても消費者側に於ても相當ストックもあるのであるから在來の生地及和服地を利用せしめることが必要である。然し今後新たに生産する生地は、糸の番手から織方に至るまで規格化を行ひ、品種の統一を行ふと同時に、模様や色も或程度の制限を加へて行くことにする。

5) 小兒標準服

出生より國民學校入學までの期間、小兒の被服も標準化を行ふことが必要である。小兒服は最も衛生的で便利なのであることが主眼であるから、洋服系と和服系の二種を標準化し、之が着用を指導する。

6) 作業衣

最近會社工場方面では作業衣が漸次普及せられるに至つたが、然し何れも區區であるばかりでなく、何れの作業にも適した作業衣であるとは考へられぬものも少なくない。最も作業に適した作業衣が出来れば少くとも同一作業は全国的に統一が可能であり、斯くすれば値段も亦安價に提供し得る筈である。作業衣は作業能率の向上、保健衛生災

害豫防上等から之が必要は萬人の認むる處であるから、作業衣も全国的に統一を圖り、産業戰士の健康を守り、災害を妨ぎ、経済的たらしめねばならない。今差し當り必要と考へられるものは次の業態である。

(イ) 會社、工場、鑛山その他の事業場の従業者

(ロ) 商業及同系の従業者

(ハ) 農業者

7) 被服改善専門委員會

以上の如き被服の標準化、規格化、單純化、制服の制定及實施案の作製等に就いては斯界の業者、専門家により被服改善専門委員會を設置せしめて審査研究の上決定する。

(4) 最低衣生活及最低被服費

計畫的に最低の衣生活をするためには、最低被服表を作製し、これを實行することである。最低衣生活のためには現在所持する衣類の現在調査をなし、現在ある衣類表を各人別に作製し、最低被服表と照合し、本年は間に合ふか、新調せねばならぬかをよく調べて最低衣生活の徹底を期さねばならない。又現在衣類調査表は破損の程度修理可能のもの、不可能のもの、完全なものと、品種別に分類整理しておき、活用、利用、轉用、新調を考へ、極力無駄を省き最低衣生活の徹底を圖らねばならない。

勞研の最低被服費と被服表

最低被服費と云ふも、一般にはどの程度の内容であるかは知られてゐないのであるが、最低被服費決定には種種意見もあり、又職業、年齢、地方により異なるので、一本の表で示すことは不可能であるが、勞働科學研究所が昭和一

六年一二月頃の市場値段及公定價格に於て、最低被服表により、最低被服費を研究したものを参考に掲げれば第七八表の如くである。(被服費は事變以來甚しく上昇し、指数で昭和一八年三月をみると労働者では二二四・五に上昇してゐる、故に

第114表 最低被服身廻品費

年齢別	上着類	下着類	附属品類	小計	手入その他	合計	割引したる1ヶ月の被服費	同月平均
乳児期(生後1ヶ年迄)	8.81	2.55	3.43	14.79	4.00	18.79	17.03	1.42
幼児期(2-6歳)	4.75	2.80	6.55	14.10	4.00	18.10	17.15	1.43
"	6.82	3.00	9.49	19.31	4.00	23.31	21.95	1.83
小児期(7-12歳)	18.36	2.50	18.82	39.68	5.00	44.68	41.01	3.34
"	15.14	4.28	21.12	40.50	5.00	45.50	42.48	3.54
青年期	19.81	5.59	32.18	57.58	6.00	63.58	59.63	4.97
"	19.89	6.50	23.20	49.63	6.00	55.63	51.65	4.30
成人	35.62	7.64	26.86	70.12	6.00	76.12	69.00	5.75
" (女) (夏洋服)	7.67	4.20	12.30	24.17	—	69.79	66.09	5.51
" (女) (夏和服)	7.73	2.10	1.55	11.38	6.00	57.18	53.30	4.47
" (女) (冬)	11.78	9.67	2.37 15.98	39.80	—	—	—	—

(注) 雑費(手入その他費用)は極内給の10%乃至15%位に見積つた。

X印は帯類の費用、(洋)は夏洋服に用ひた場合(和)は夏和服を用ひた場合

此點考慮に入れて観る必要があらう。) 勞研に於ける研究は乳児期、幼児期(男女別)小児期(男女別)青年期(男女別)成人期(男女別)別に分類し、被服の種類、地質、所持数、使用年限、新調費、用布等を決定し、之れによつて被服費を算出したものである。

これを標準家族に構成して、一ヶ月當り被服費及寝具費をみると(寝具表略)次の如くである。

前期		後期	
乳児期 一名	乳児期 一名	幼 兒 期 一名	幼 兒 期 一名
小 兒 期 一名	小 兒 期 一名	夫 青 年 期 一名	夫 青 年 期 一名
夫 婦 二 名	夫 婦 二 名	夫 婦 二 名	夫 婦 二 名
五 名		五 名	
A 類 二六圓一二錢 (一六圓五八錢)	A 類 二六圓一二錢 (一六圓五八錢)	C 類 二六圓一二錢 (二〇圓一三錢)	C 類 二六圓一二錢 (二〇圓一三錢)
B 類 二二圓六二錢 (一六圓七八錢)	B 類 二二圓六二錢 (一六圓七八錢)	D 類 二五圓六五錢 (一九圓六六錢)	D 類 二五圓六五錢 (一九圓六六錢)
平均二二圓五一錢		平均二五圓八八錢	

◎ ABCD別は組合せを互にした區別である。
◎ 括弧内は寝具費を除外した被服費である。

即ち以上を全平均に見れば二四圓二〇錢に當る。

戦時衣生活について 戦時下に於ける衣生活は出来る丈新調を見合せ、あるものは間に合はせることが強く要請されてゐる。故に此最低被服表に於ても決戦型被服生活に切り替へるならば、ストックもあることであるから、國民全體から見るときは相當喰ひ延ばすことは可能であらう。

先づ第一に考へられることは使用年限の延長である。二年のものは三年に三年のものは四年に使用するよう工夫することによつて此處數年は少くとも被服費は極端に切り詰められるであらう、又せねばならぬ。今凡ての衣類の使用を一部延長するとすれば此被服表に於ても約四割節約が可能であるから九圓六八錢の節約となり、標準家族の被服費は一四圓五二錢となる。全費支出に對する割合一七・三%から一四・八三%になし得るのである。

然しこれを更に筆者の標準生活案に一日も早く近づけることにするならば被服費は半額で済むに至るであらう。故に被服費の徹底した節約は被服の標準化規格化によることが最も捷徑であることを知らねばならぬ。

(5) 衣生活指導の具體化

食にしても住にしても衣にしても、科學的最低基準を決めただけでは効果は期待出来ない。これが凡ての國民に實行出来るような生活指導が必要である。

先づ第一に必要な事は

(1) 選擇

衣類を新調するに當つては衣服の使用目的を明確にする事である。例へば作業衣か平常着か、寢巻かその使用目的に合致したものを選ぶべきである。

(2) 着方

次は着方である。同じ洋服、同じ靴でも、着方、はき方の上手下手ではその持ちに相當の開きを示すものである。故に着方とそれが扱ひ方は常に注意をする必要がある。洋服を例に取れば大體決つて早く傷む箇所は、即ち上衣なら衿、ポケット、袖口、裾、袖口裏、ズボンならば、尻下、膝、裾の如き部分を出来るだけ平均的に使用に耐へるよう

第15表 最低乳児被服表 (勞研、最低生活費の研究)

被服種類	地質	所持数	使用年限	新調費	新調補給回数	一年常用費	用布	備考	A 最低乳児被服表 (勞研、最低生活費の研究)				
									米	圓			
上着類	夏着物 單衣	ス、フ、ネ	2	2	5.00	2年—1	1.25	大絹 1	米50	簡單なる改良服として特に肩當を附す縫目少なきを可とす 外出着とす、少しくダザイソシ た型のもの 簡單なる改良服とし、表裏引き かへしになす 鈎釦とす			
		ス、フ、浴衣	3	2	6.00	2年—1	1.00	〃 1	〃 50				
		ス、フ、無地	1	2	2.50	2年—1	1.2	〃 1	〃 20				
		ス、フ、モス	2	2	6.00	2年—1	1.50	〃 2	〃 50				
		ス、フ、モス	1	2	3.00	2年—1	1.50	〃 2	〃 50				
		ス、フ、モス	1	2	4.00	2年—1	2.00	〃 2	〃 50				
		毛絲又は人絹	2	4	2.50	4年—1	〃	〃	5オンス				
		無	2	2	2.50	4年—1	〃	〃	〃				
		下着類	肌着	ガーゼ又は晒	5	1	2.50	1年—1	50		並 絹	米90	改良肌着 〃 既製品(スフネル防水) 着古したる浴衣を用ふ、1反に て8枚作る
				ガーゼ又は晒	2	2	2.00	1年—1	50		〃	76	
厚地毛織地 (塵物再生)	3			2	5.10	1年—1	85	〃	〃				
スフ新モス	40			1	—	—	—	—	—	—			
附屬品	帽子	カソレイシヤ	1	2	50	2年—1	25	並 絹	米40				
		スフ、セル	1	2	50	2年—1	25	〃	30				
子		スフ、セル	3	6ヶ月	1.20	6ヶ月	80	〃	40				

被服種類

米

種類	下毛絲又は代用絲	3	1	年	75	1年—1	25	1オンス	備考(自家製を主體とす)
靴	ネソネコスフ紡績	1	8	年	1.50	8年—1	1.88	和服地表裏1反	どてら綿3枚
計							14.96		
雑費							4.00		絲代用補綴附属品補給
合計							18.79		

衣料點數 53點

B 幼 兒 期 (2—6歳男)

被服種類	地 質	所持數	使用年限	新調費	新調補給度數	一年費用	用 布	備 考(自家製を主體とす)
夏服上着	スフ・洋服地	3	2年	8.10	2年—1	1.35	大 幅 1米 80	簡單服とす
夏服下着	スフ・和服地	2	3年	5.00	3年—1	83	〃 〃 2〃 〃 〇〇	改良服とす
冬服	スフ・冬服地	2	3年	10.00	3年—1	1.25	〃 表裏 1〃 〃 〇〇	簡單服とす
スエーター	毛絲又は代用絲	1	4年	2.60	4年—1	65	〃 〃 8 オンス	1オンス25錢として30%多く要するものとして計算
襪	スフ・ネ	2	3年	4.00	3年—1	67	大 幅 1米 50	改良服とす
腹巻	キヤラコ代用布	2	2年	80	2年—1	20	大 幅 米76	既 製 品
帽子	キヤラコ代用布	1	2年	1.00	2年—1	50	〃 〃 〃	既 製 品
靴	毛絲又は代用絲	1	2年	8	2年—1	40	〃 〃 〃 2 オンス	既 製 品

靴	下(夏)	ス	フ	2	6+	月	1.00	6ヶ月—1	1.00	3	オンス	既 製 品
靴	毛	代用	皮	3	1	年	2.25	1年—1	75	〃	〃	既 製 品
靴	毛	代用	皮	1	1	年	3.75	1年6ヶ月—1	2.50	〃	〃	既 製 品
靴	毛	代用	皮	2	6+ <td>月</td> <td>1.60</td> <td>6ヶ月—1</td> <td>1.60</td> <td>〃</td> <td>〃</td> <td>既 製 品</td>	月	1.60	6ヶ月—1	1.60	〃	〃	既 製 品
靴	毛	代用	皮	3	1	年	3.00	1年—1	1.10	大 幅 米 75	用布多き故特にソックを附す	
靴	毛	代用	皮	2	1	年	3.00	1年—1	1.50	〃 〃 1〃 10	(夏)(冬)既 製 品	
靴	毛	代用	皮	2	6+ <td>月</td> <td>20</td> <td>6ヶ月—1</td> <td>20</td> <td>〃</td> <td>〃</td> <td>既 製 品</td>	月	20	6ヶ月—1	20	〃	〃	既 製 品
靴	毛	代用	皮	14.10								既 製 品
靴	毛	代用	皮	4.00								既 製 品
靴	毛	代用	皮	18.10								既 製 品

衣料點數 38點 (2—6歳女)

被服種類	地 質	所持數	使用年限	新調費	新調補給度數	一年費用	用 布	備 考(自家製を主體とす)
夏服	和服地	2	2年	3.00	2年—1	75	大 幅 1米 50	簡單服とす
夏服	和服地	1	2年	1.36	2年—1	68	〃 〃 1〃 50	簡單服とす
夏服	和服地	1	1年6ヶ月	3.00	2年—1	2.00	〃 〃 〃 75	簡單服とす

品類	数量	単位	備考
女児冬服	2	年	既製品 改良服とす
女児冬服	3	年	
女児冬服	4	年	
女児冬服	3	年	
女児冬服	2	年	既製品 既製品(常時はなるべく使用せぬこととし冬期外出の時のみ用ふ)
女児冬服	3	年	
女児冬服	1	年	
女児冬服	3	年	
下腹	2	年	既製品 既製品(常時はなるべく使用せぬこととし冬期外出の時のみ用ふ)
下腹	3	年	
下腹	1	年	
下腹	2	年	
帽子	1	年	既製品 既製品(常時はなるべく使用せぬこととし冬期外出の時のみ用ふ)
帽子	3	年	
帽子	1	年	
帽子	3	年	
靴	1	年	既製品 既製品(常時はなるべく使用せぬこととし冬期外出の時のみ用ふ)
靴	3	年	
靴	1	年	
靴	3	年	
計	19.31		
雑費	4.00		

合計	23.31		
----	-------	--	--

D 小児期 (7—13歳男)

衣料点数 53 点

被服種類	地質	所持数	使用年数	新調費	新調補給回数	一般年用費	用布	備考(自家製を主體とす)
夏服	フーロン	1	3年	7.30	3年-1	2.63	大幅 3米 50	既製品 (一般市價20圓位) 既製品(4圓72錢以上7圓位)
夏服	フーロン	2	2年	2.40	2年-1	60	1米 00	
夏服	フーロン	2	2年	4.80	2年-1	1.20	大幅 2米 00	
夏服	フーロン	1	2年	3.00	2年-1	1.50	大幅 2米 50	
夏服	フーロン	1	1年	3.00	2年-1	2.00	大幅 2米 00	
夏服	フーロン	2	3年	5.00	3年-1	83	2米 00	
夏服	フーロン	2	4年	6.00	4年-1	75	10 オンス	
冬服	毛織又は代用材	1	3年	15.00	3年-1	5.00	大幅 2米 50	
冬服	毛織又は代用材	1	2年	4.70	2年-1	2.35	大幅 1米 50	
冬服	毛織又は代用材	2	3年	4.50	3年-1	1.50	大幅 2米 00	
下腹	キヤラク	3	1年	2.70	1年-1	90	大幅 米 80	(市價 1圓50錢位)
下腹	キヤラク	2	2年	1.00	2年-1	25	1米 00	
下腹	キヤラク	2	3年	3.40	2年-1	85	1米 50	

品名	数量	単位	金額	備考
下品 (晴雨兼用)	2	6ヶ月	1.60	既製品
傘 (晴雨兼用)	1	3年	5.00	"
運動靴	3	4ヶ月	60	"
計			6.00	
雑費計			40.54	既代補綴附属品補給 衣料点数87点
合計			45.54	

青年期 (男)

被服種類	地質	所持数	使用年限	新調費	新調補給度数	一年費用	用布	備考 (自家製を主體とす)
制服 (夏)	箱	2	3年	18.00	3年-1	3.00	大幅 4米 00	既製品
" (冬)	箱	1	4年	20.00	4年-1	5.00	" 裏付 4米 00	
作業服	箱	1	3年	9.00	2年-1	3.00	" 3米 50	
履スエーター	箱	1	2年	7.00	2年-1	2.33	" 3米 50	
襪	箱	2	2年	10.00	2年-1	2.50	1度	
手袋	箱	1	5年	3.50	5年-1	70	14オンス	
靴	箱	1	7年	23.00	7年-1	3.28		既製品

品名	数量	単位	金額	備考
下品	3	1年	3.00	既製品
靴	2	2年	5.00	"
運動靴	2	3年	10.00	"
計			10.00	
雑費計			75	既製品
合計			85	既代補綴附属品補給 衣料点数76点

G 青年 期 (女)

被服種類	地質	所持数	使用年限	新調費	新調補給度数	一費 年常用	用布	備考(自家製を主體とす)
夏ワンピース	スフ夏服地	2	3年	7.00	3年-1	1.17	大幅 3米0)	既製品(34.45 錢位が普通品) 既製品では最低4.80 錢以上 8.70 錢位 既製品 既製品 (3圓80錢位)
フカウ	ス人絹相交織	2	3年	5.00	3年-1	83	" 1 " 50	
スカーフ又は スジャンパー	スフ毛交織	1	3年	3.50	3年-1	1.17	" 1 " 50	
冬ワンピース	"	2	3年	18.00	3年-1	3.00	" 4 " 00	
フカウ	"	1	3年	7.00	3年-1	2.33	" 2 " 00	
スカート	"	1	3年	9.00	3年-1	3.00	" 1 " 80	
外	"	1	7年	27.35	7年-1	3.91	500	
スエーター	毛絲又は代用品	1	5年	4.00	5年-1	80	14オンス	
作業服	スフ給交織厚地	1	3年	6.00	8年-1	200	大幅 1 反	
履	スフ浴衣地	2	3年	10.00	3年-1	1.66	大幅 1 反	
下着	スフ代用布	3	1年	3.00	1年-1	1.00	大幅 1 米 00	
フカウ	スフ代用布	2	1年	4.00	1年-1	2.00	" 1 " 20	
スリッパ	スフ代用布	2	1年	4.00	1年-1	2.00	" 2 " 00	
ソックス	スフ	2	2年	6.00	2年-1	1.50		

H 成人 期 (男)

エプロン	キチラコ代用布	1	1年	1.00	1年-1	1.00	大幅 1 米 00	既製品 { 靴下は常時なるべし 使用せぬこととし 冬期外出の時のみ 既製品 } 冬用 ②犬皮(配給品は約半額) 既製品 " (市價 7 圓位) "
靴下 (夏)	スフ絹交織	2	3ヶ月	2.00	3ヶ月-1	2.00		
" (冬)	スフ毛交織	2	3ヶ月	2.40	3ヶ月-1	2.40		
属靴下	靴代用皮	2	6ヶ月	2.40	6ヶ月-1	1.20		
靴	靴代用皮	1	1年半	11.00	1年半-1	7.33		
靴	靴代用皮	1	6ヶ月	2.00	6ヶ月-1	4.00		
運動靴	スフツク柄	1	6ヶ月	1.20	6ヶ月-1	2.40		
運下	スフツク柄	2	6ヶ月	1.20	6ヶ月-1	2.40		
傘 (晴雨兼用)	スフ絹交織	1	3年	7.00	3年-1	2.33		
ハンカチーフ	"	3	4ヶ月	60	6ヶ月-1	60		
計						49.63		
雑費						6.00		
合計						55.63	絲代相模附屬品補給 衣料點數96點	

被服種類	地質	所持数	使用年限	新調費	新調補給度数	一費 年常用	用布	備考(自家製を主體とす)
國民服	スフ綿交織サー	1	3年	33.55	3年-1	11.20		既製品乙 26.45甲 33.55(公)
上	スフ	1	8年	18.00	8年-1	2.25	表裏各 1 反縮	

種類	品名	数量	単価	合計	備考
履類	スリッパ	2	300	1 # -1	1.50 # 1 # 20
履類	スリッパ	2	3.40	1 # -1	1.70 # 2 # 00
履類	靴	2	2.00	1 年-1	50 大綱 1 米 00
履類	靴	2	2.40	3ヶ月-1	2.40
履類	靴	2	3.00	3ヶ月-1	3.00
履類	靴	1	11.00	2 年-1	5.50
履類	靴	3	90	4ヶ月-1	90
計					既製品 " " " " " "
				24.17	衣料点数 63 點

成人 期 (女) (夏和服の場合)

種類	品名	数量	単価	合計	備考
上着類	スエード	1	12.00	7 年-1	1.70
上着類	スエード	1	12.00	10 # -1	1.20
上着類	スエード	1	5.00	5 # -1	1.00
上着類	スエード	1	7.00	7 # -1	1.00
上着類	スエード	1	10.00	30 # -1	32
上着類	スエード	2	10.00	2 # -1	2.50
計				71	1 本

6.00以上、夏は紋服代りとする
(5 圓以上)

種類	品名	数量	単価	合計	備考
帯類	スエード	1	250	3 # -1	84 並幅 1 米 90 芯 2 分 1 本
下着類	スエード	2	2.40	1 年-1	1.20
下着類	スエード	1	2.00	5 # -1	40
下着類	スエード	1	1.00	1 # -1	50
計				11.38	既製品 " " 衣料点数 39 點

成人 期 (女) (冬)

種類	品名	数量	単価	合計	備考
被服種類	長着	2	30.00	8 年-1	1.88
被服種類	長着	1	20.00	10 # -1	2.00
被服種類	長着	1	30.00	30 # -1	1.00
被服種類	長着	2	19.00	3 # -1	3.00
被服種類	長着	1	15.00	10 # -1	1.50
被服種類	長着	3	6.00	3 # -1	1.00
被服種類	長着	1	21.00	15 # -1	1.40
計				67	表芯 表裏 1 反 短 表裏 1 反 短 " 1 反 " 表 1 反 裏 5 米 市價 1 反 9.00 以上 夏冬兼用とす

a) 衣類の入れ物

我國では箆笥、柳行李、葛籠、長持、支那靴、トランク等が用ゐられてゐるが、最も適當なものは箆笥である。タンスは桐材で作られてゐるので軽いのみならず、濕氣を吸はず、虫の付かない特徴がある。柳行李や葛籠は蓋をしてしめるため衣服を壓迫してそのため小皺が出来る虞がある。支那靴は此點では餘程優つてゐるが、時にその内張の布の糊から虫の生ずる憂があるので、旅行用等には適するが自家用には箆笥が最も適當である。

b) 衣類の害虫豫防

衣類には衣蛾、毛氈蛾、紙魚、姬松魚蟲の如き害虫が付き易い。殊に動物性纖維品には甚しいので、時々畳み直したり、虫干をしたりすることを怠つてはならぬ。又豫め虫の付かぬように樟腦、龍腦、ナフタリン又は丁字の紛末等を紙に包み、衣服の間や、箆笥の箱の隅々に入れて、害虫豫防とすることが大切である。

c) 箆笥その他衣類の入れ物の置場所

衣類の格納が如何に完全であつても、容器そのもの、置場所を誤つては完全なる保存は期待し得ない。置場所の條件としては先づ風通しのよい、濕氣のない所を選ぶこと、土藏は最適であるが、都市で土藏ある家は少ないから土藏のない家では二階があれば二階の西日をさけて風の通る部屋の一方に置くことが最もよいのである。よく押入れ等に入れる向もあるが、押入れは三方が土の壁で前の一方が唐紙であるから空氣の通りがよくないのである。殊に北の方についた押入れは乾燥する道がなく、多くは濕り勝である。平家になると更に一層此難があるから充分考へて其前の最適の處におくことである。尙最も條件の悪い處以外に置く處のない様な家庭に於ては絶えず衣類を出して乾燥その他の點に注意を怠らぬようにすることである。

d) 衣類の仕舞方法及手入法

一度でも着用した衣類は、既述の如く身體から出る自然の濕氣や、市井に漲る塵芥が、織目とか、縫目に入つてゐるものであるからそれをそのまま藏つてはこれ等の濕氣や埃のために、自然地質を損じたり、或は褪色したり、或は汚斑(しみ)になつたりする恐れがあるが故に、仕舞ふ前にはよく空氣干しにして濕氣をぬき、次に外面の塵埃を除いてから藏ひ込まねばならない。又襟の處の汗、垢等油氣の附いた處は揮發油やベンゾール油の如きによりよく拭きとり、その上から吸取紙をあてておくとか、襦袢の半襟の如きは取りはづして仕舞ふと云ふ如き注意が必要である。さて衣服を容器に入れる場合は、小皺にならぬ様、皺のあるものは火鬚斗をあてよく伸ばしてから正しく畳んで仕舞ふのである。仕舞ひ込む場合にも、絹物、木綿類の如く別にし、或は常に用ふるものと、被服の如く減多に用ひぬものとは區別して入れるとか、或は衣類を入れる場合、出来る丈平坦にするためには衣類の間に帯を入れるとかの工夫をして衣類を正しい状態に仕舞ひ込む事に心懸くべきである。

e) 土用干について

我國では梅雨期には濕氣が多いので、梅雨明けには晴れた一日を選んで衣類を日光に曝し、風に吹かせ濕氣を發散させる土用干をすることは慣例となつてゐるのであるが、これは出来るなら梅雨期明けのみならず、秋にもすることが必要である。寒中もした方がよいと云はれてゐるが、要はかく度度繰返すことによつて箆笥なり、葛籠なりの衣類容器の掃除ともなり、整理ともなるので、自然手入れが行はれるからである。

f) 洗濯の仕方

汚點抜、洗濯にも順序手続きがあつて、只ごしごし洗へばよいのではなく、やはり洗ひ方が色々あるのである。

先づ盥に入れる前に(1)木綿物、絹物、メリンス、人絹、ステープルファイバー、毛織物の如き種類を分けること(2)汚れの程度により或は白のもの赤の物等色素により、色の出るような物をわける、(3)品質により石鹼を使ひ分けるようにする、(4)その他の区分をする。次は洗ひ方であるが、先づ洗ひ方には、板揉み洗、手揉み洗、掴み洗、振り洗、叩き洗、押し搾り、たぐみ搾り、巻き搾り、ねち搾り等種類あるが、之れを大別すると、もみ洗ひと叩き洗ひと二大別することが出来るであらう。此の外にブラッシ洗ひの如きものもあり、機械洗濯もあると云ふ風に種種である。然しその洗濯する品物及量により色色と洗濯の仕方を分けるのがよいのである。家庭でする洗濯の仕方としては平常着であれば踏み洗ひが一番よいと云はれてゐる。盥の中に洗濯物を全部入れて素足又はゴム靴をはいて全部を萬邊なく踏むのである。一枚二枚のときには、踏み洗ひよりは板洗ひ又はもみ洗ひでもよいであらう。踏み洗ひは濯ぐにもよく、おしめ等多量に洗ふには殊に便利で、とけぬものにも、濯ぎにも凡てよいと云はれてゐる。(婦女新聞家庭洗濯座談會近藤耕藏氏談)

人絹は他の繊維と違ひ、伸張力がない。人絹の乾いたものは練り糸の四分の三の強さであるものが濡れると、同じく濡れた絹の二分の一になり、木綿糸に比べると乾いてゐる時は人絹は木綿の半分であるが濡れると四分の一になる。即ち濡れると甚しく弱くなるので洗濯の時には特に人絹やスフは注意を要するのである。又煮洗ひはいけない。人絹スフは火のしをかける時も、あまり熱くない事が必要であり、又なるべく引張らずしぼらずもまず、乾かすときも仕上のときも部分的に引張らぬように注意することである。

最近洗濯用石鹼が不足し、又品質が低下して來たので洗濯の際石鹼を選択せよと云ふことも實際上無理となつて來たが、然しその知識だけは一通り知つておかねばならぬことであらう。洗濯石鹼には液状と粉末と固形のもの

と三種あるが、水石鹼は高價のため一般には使用されないで、主として粉末と固形石鹼である。石鹼は同じでも鹽水や硬水では効果が著しく異なることもあるから水についても又注意を要する。

石鹼の簡単な鑑別法としては、水に溶けがよく而かもよく泡立つもの、少してよく汚垢が落ちるもの、地質や皮膚をいためないもの、濯いで樂に石鹼分の除かれるもの等である。

以上の條件を備へてゐるものはよい石鹼と云へるものである。こうしたよい石鹼を選ぶやうにする。尙石鹼を分けて植物性のもので動物性のもに分けられる。動物性の石鹼は熱湯を使つて、木綿類を洗ふにはよろしいが、絹、毛のものには不適當であり、植物性のもものは冷水によく溶け、よく泡立つから従つて洗滌効果も優れてゐるのである。更に植物性のもものは、布地に石鹼分を残さない特長を持つてゐるのでよい石鹼とされるのである。マルセル石鹼が一番よいと云はれたのは植物性の石鹼だからである。動物性の石鹼は布地に對して吸着力が強いが植物性は比較的弱いので動物性石鹼に比して水洗ひで樂に濯げるのである。これを布の方から云ふと、布地の質によつても石鹼の残る量に相違があり毛が最も多く残り、次に絹、人絹、木綿の順である。故に吸着力の強い布地に對して吸着力の強い石鹼を用ひると、石鹼分は多く残留することになるので、動物性の石鹼で絹、毛の類を洗ふことは不適當であると云はれてゐるのである。これで洗濯には石鹼を選ばねばならぬ理由が判明したであらう。化粧石鹼を洗濯に使ふ者もあるが化粧石鹼の多くは動物性脂肪を原料としてゐるのであるから、洗濯には不適當であると云はなければならぬ。又粉末石鹼は特殊のものを除いては、三〇%位の炭酸ソーダを加へてあるから、木綿、麻等の植物性繊維にはよいが、絹や毛等の動物性の繊維には適當でないことと云ふことが出来るのである。

以上の如き點をよく知つて洗濯をするならば、最も效果的に、而かも布地を傷めずに、清潔を保つことが出来るで

あらう。

g) 汚點抜について

次に汚點抜の方法であるが、汚點は極少部分であるにかかわらず、その汚點の性質や、位置によつては衣服全體を棄無しにする事も少くないので、汚點は先づ速かに取る事が第一である。汚點は時日を経過するに従つて別種のものに變化し、容易に取れなくなるものであるから、性質が變化しない内に取ることである。處理に際しては汚點の性質、着物の通つて來た経路臭ひ色等により觀察し原因をつきとめることである。例へばソースか醬油か油かを知つてそれを取るに最適當な處置をすることである。尙注意すべきことはアルカリに弱い物にアルカリを使つて、汚點は取れたが色がぼけたと云ふ様なことのない様に注意することである。普通汚點は脂肪性か、醬油か、色素性等等に分けられるが、脂肪性なら油で取り、浸潤性なら湯で出すか、色素性なら漂白するかである。専門家なら種々道具も薬もあるが、素人の方法としては、一番下にガラス板を置き、タオルを三、四枚敷き、その上に汚點の部分のをせ、割箸の先に脱脂綿をあて、ガーゼで包んだものに薬を少しづつつけて汚點を打つようにし一方同じく箸の先に包んだ脱脂綿を用意して薬のしめりを吸収し、次次にうつして行く、和服類なら表と裏とを外し別別に取るのである。原因不明のもの時日の経過したものは家庭でやらずに洗濯屋に出すようにした方が安全であらう。

洗濯に當つて尙二、三注意すべき事は

1. 洗濯の姿勢は萬止むを得ぬ以外は立洗ひにすること(洗濯場がなければ盆を箱か蓋に乗せればよい。)立洗ひは能率的であり疲勞もしない。

2. 干すときは和服は竿でよいが洋服は必ず洋服かけにて干すこと

3. 色物や絹物はなるべく陰干にすること

4. アイロン仕上げの時霧をかけた直ちに行はず別の布に包んで二、三〇分おいて、全體に濕りが行き亘つた頃にかけること、アイロンは靜かに押し同じ處を二度も三度もこすらぬようにすること

5. 石鹼はよく溶かして液にして使ふこと

(6) 死蔵衣類身廻品の厚生活用

衣類持物調査してみると、人にもよるが驚くべき多くの衣類を持ち、死蔵されてゐるのを發見するのであるが、ある物を大切に取扱ふことと、ある物で間に合はせようと云ふ現下の國家的要請に答へる爲には、死蔵せる衣類の活用利用厚生を聞くは最も緊急な事であると云はねばならない。既に指摘した如く、我國民被服は文化性が強く、又量的にも相當ストックを有するが故に、衣服調査等から推定すると、作業衣、靴下、足袋の如き消耗の早いものは別として、一般被服類は一般サラリーマンでは三、四年位、勞務者でも二年半乃至三年位は新調せずとも間に合ふであらうと推定されるのである。母親の嫁入當時の晴着はないか、知らぬ内に大人になつた息子小學時代の衣類が残つてはないか、餘りに派手で着られなくなつた衣類はないか等等、箆筒や行李の中を調べてみると、思ひがけぬ忘れ物が、何處の家庭にも大小にかゝわらず出て來るものである。こうした死蔵品や、着られなくなつた衣類を標準服に作り直すとか、極端に派手なものはカーテンに活用するとか、座蒲團にするとか、子供の服にするとか、小さくて着られないものは廢品交換會を催して交換するとか、途はいくらでもあるのである。此際時代おくれの長帶等は廢止して衣類に厚生せしむる事も大いにやりたい一つである。着物が一部破れたり、傷等の出來たものは柄によつては洋服のブラウ

スに被ち替へたり、裏やカバー類に廻したり、木綿物であつたら子供用に廻すとか、古ワイシャツの如きもベビー服、遊び着、帽子等に厚生出来るであらう。父の古洋服を子供用に仕立て直して充分使へるものも少くない。例へばボロ屑類の如きも、木綿、毛等に區別して回収する、又衣類にあらざる塵芥の燃料化又罐類、傘類、焼物、ゴム類、空堀、紙屑、屑鐵類等厚生利用の途があるのである。こうした厚生利用の途を具體的に挙げれば数限りなくあるが、死蔵衣類の活用廢品の厚生は、その家庭によつて、その家庭に最も適した方法に於て考案し活用厚生されねばならない。又厚生利用出来ぬものも捨てずにとめて賣り、そうして得たお金は國防献金等にすることである。

第四項 保健管理指導

國民保健の問題は單なる疾病を治療するのみではなく、むしろ健康な肉體と健全な精神確保にあるのである。故に今後の保健管理は疾病の如きは末の問題であつて、疾病にならぬ前の豫防でなければならぬ。即ち國民の生活全體の指導調整により、生活の向上、健康の確保、體位の向上等に主力が注がねばならぬのである。即ち保健管理は作業も、休憩も、住居も食も衣服も交通も悉く生活全般に亘つて保健對策の對象となるのである。故に國民の保健管理指導は、從來の如き治療に主力を注いで來た醫師に任せておいたのみでは解決出来ないものである。國民の生活に關係ある全部のものが之れに當つて計畫考案し、實行しなければならぬ。國民が健康な生活を営むためには、生活全體を整へることである。即ち體育、衛生、榮養、住居、被服、勤勞する場所の整備及勞働條件等生活全般に亘つての生活指導に基礎が置かれねばならない。

(1) 保健管理指導方針

保健管理の指導には先づ指導方針を確立せねばならない。指導方針は出来る丈詳細に具體的なる事が望ましい。

(A) 毎年その年度の保健管理指導の目標を決定する。例へば結核豫防、性病撲滅、健民運動の様な重點をおくべき大目標を定めたら、今度はこうした指導すべき主要事項を計畫的に四季別に、更に月別に配置する。季節によつて起る疾病の如きは、その季節に又はその前に豫防指導の季節別配置をするが如き、梅雨期の指導、夏期は夏期としての保健指導があるから、それに適した指導計畫をするのである。又季節別に出る食糧や果物、飲物の保健的用ひ方の指導の如き種々その地方によつて異なるものは地方事情を充分考慮して定める。又地方によつてあまり感心出来ぬ非衛生的風習の如きも順次撲滅又は改善して行くように、指導計畫の中に入れることである。又會社工場礦山その他の事業場等より生ずる悪瓦斯、煤煙その他非保健的事項も少くないが、こうした事も町會、町村、市と云つた自治體、團體を通じて改善に努力し、環境の整備をなして、附近住民の保健を確保することが必要である。又最近の如く食糧不足殊に魚類、野菜類の不足又は種類の邊在は國民榮養を危険にせしめてゐるので、極力これが確保に努力すると同時に、榮養指導により缺陷の除去に努めしめる事が大切である。

(B) 日常の規則的指導

一ヶ年間の大綱、四季別月別指導目標が決定したら、次にその指導計畫に基いて、毎日の實行せしむべき行事を決定し、之を極力實行せしむるようにする。

(例)

イ、齒磨勵行
ロ、清潔、清掃

ハ、食事、完全咀嚼

ニ、就寝、早寝、早起、睡眠休養の科學化、禁酒、禁煙

更に絶えず注意すべきは

- a 寢具類の日光消毒
- b 洗濯の勵行と指導
- c 採光、換氣、整頓等の注意
- d 便所、臺所等の清潔上の注意
- e 含嗽、手洗の奨励
- f 食欲の不振善處、間食の指導（なるべくなくす）と偏食の矯正指導
- g 豫防注射等の勵行
- h 感冒、胃腸病の豫防指導
- i 患者に對する醫師との協力
- j 虚弱者傷害者に對する適切な處置及指導
- k 定期的體溫測定と體溫表による指導
- l 檢便、驅虫劑、傳染病豫防藥の服用指導、一般賣藥の用ひ方
- m 定期健康診斷の實施
- n 南京虫、のみ、蠅、その他害虫驅除の指導

o 適正なる體育指導（ラジオ體操、國民體操、三橋體操、その他の運動、ハイキング、登山その他）

p 體溫計の使ひ方、見方、その他衛生器具の使ひ方等

q 保健衛生相談

以上の如き諸種の事項は各家庭ですること、町會、常會、自治體等でするに適した事等があるが、何れも大切なことであるから、細心の注意を拂つて計畫的にこれが運用指導をするならば、國民保健の向上は期して待つべきものがあり、殊に保健指導は主婦が中心となることによつて効果は一層増すであらう。

(2) 榮養指導について

尙榮養については既にふれた處であるが、特に保健上注意を拂ふことが大切であるから主婦は充分なる榮養知識を得るよう努力しなければならぬ。又寄宿舎、食堂の如き團體生活に於ては健康診斷、食堂調理場の清潔保持等は衛生上重要事項であるから嚴守せしむるようにならねばならぬであらう。

(3) 保健婦の活動を強化擴充せよ

最近保健婦の活用が漸次普及し（全國で約二萬人、内産婆看護婦兩資格者約一萬人、前者何れかの有資格者約五千人残り五千人は無資格者）學校、地方保健施設等に常置されるに至つたが、その成績は見るべきものがある。之を更に擴張し町會單位に全國的に配置し、直接指導に當らせることが出来れば此の上なのである。尙後述の如き保健婦も生活指導婦にまで向上せしめるようにするならば更らに生活改善に貢献するであらう。

第五項 貯蓄指導

(1) 貯蓄目標二七〇億圓

昭和一八年度の貯蓄目標は二七〇億圓で、昭和一七年の二三〇億圓に比して四〇億圓の増加であるから、割合でみると一七・四％の増加である。これは國民所得五〇〇億圓の四分の一に當る額である。換言すると昨年の國民生活賃金一五〇億圓を今年は一三〇億に即ち約一割五分の切り下げをして始めて達成されると云ふことである。そこでこれが完遂のためには國民生活を生産、配給消費の凡ゆる面に於て決戦段階に即應する如く改變せねばならぬことは云ふまでもないことである。而かもこれは國民の義務であり、又任務である。

先づ第一になすべきことは、國民全體が今日以上に働くことである。そして生産を擴充し、國富を増すと云ふことである。これは同時に國民の所得を増大することになるのである。

第二には最低限にまで國民全部が例外なく、暮しを切りつめることである。

第一の働くこと云ふことは一人の無爲徒食者もなく、凡ての部署を擔當し、職域奉公することである。然るに國民皆勞が叫ばれ又國家が要請してゐるのに、實際は未だ無爲徒食者が少くないのは甚だ遺憾なことである。全くの徒食者でないまでも、女中なくとも出来る家庭が女中を二人も三人もおき、主婦は多忙多忙と稱し乍ら、芝居に映畫に、或は交際に歩き廻つてゐる者も少くないのである。別な例で遺憾に思ふことは勞働力不足、女中拂底と云ひ乍らも依然として、特殊な學校への通學する兒童のお伴である。盛裝をこらした奥さんや女中さんがゾロゾロと毎日送り迎へをし時間的浪費をなすのみならず、交通防害をしてゐるのである。時局を解せざること甚しいのみならず、こうした甘やかした、依頼心の強める以外何物でもない方法が果して我國の教育の本旨に添ふものや否や、橋田前文相は立身出世のための教育に非すとハッキリ聲明したのである。學區制の實施された今日一部特殊校を残すことなく徹底せしめ、送

り迎へのために費すような無駄な時間があるならば、そうした家庭からは女中の雇入れを遠慮せしめると同時に、主婦の如きは「一日お母さん運動」や勤勞奉仕に定期的参加せしめ、日本には一人も無爲徒食者無からしめるよう、政府も市も町も、町内會も常會も努力せねばならぬであらう。

第二の生活を最低限にまで切り詰めると云ふことの爲めには標準生活をすることである。そして生活の合理化によつて得た分を全部貯蓄に廻すのである。即ち貯蓄を合理的に而かも目標額に出来るだけ無理のないように達せしめる爲めには標準生活の確立をすることが何より大切なことである。「餘つたら貯金しよう」では切り詰められた一般勤勞者の生活からは貯蓄は出来ない。故にどうしても生活の基準を定めて、その生活標準以上の生活費は凡て切り下げるのである。只今日までの如く二割天引貯金では最低に近い生活をしてゐる人人にとつては、生活技術の拙劣も伴つて生活内容を甚しく落させる危険もある。故に生活内容を落さず、而かも生活費を切り詰るようにならねばならぬ。それには先づ第一に最低限の生活基準を決定し、此最低限の生活基準によつた生活を実践することである。(第一章生活標準の研究参照)

標準生活の實踐のためには生活設計が樹てられ、その生活設計に基いた生活指導が計畫的に爲されねばならぬことは既に述べたところであるが、此内貯蓄指導については次の如き方法が必要であらう。

(2) 生活の工夫、生活費の切り詰方

戦時生活體制の確立のためには非戰時的な生活様式の追放が先づ第一である。何れの家庭でも生活費の豫算があるのであるから、(ないものは過去の實績により作ること)この生活費を費目別に研究し、不急不要の費用を除くのである。例へば女學校卒業の長女の被服を新調する豫定であつたが、今年は見合せようと云ふ風に新調を中止するか、

本箱を買ふ豫定であつたものをミカン箱を利用して間に合せるとか、今年から夏はⅡシャツを半袖ノータイに改善するとか、父の洋服を子供用に作りかへるとか、大人用の靴下の穴のあいたのを子供用に厚生せしめるとか、保存手入れをなし使用期間を延長するように工夫するとか、お白粉や香水を止めてクリームのみとするとか、財布を自製するとか、裏紙利用、そして表裏使用のものを始めて便所用にするとか、数限りなくある良い案を家族全體について対策工夫をこらし、無を有たらしめるのである。

(3) 貯蓄運動の組織化

貯蓄も今日の如く莫大な額となり而かも國民の義務とまでなつて來た今日に於ては、組織的に而かも國民の誰もが分に應じて懸値のない處で實行されねばならない。然るに今日までは「餘つたら貯金する」と云ふ古い貯蓄に對する考へ方が依然として國民の頭から清算されないうために、貯蓄の國民化と云ふか、公平なる貯蓄が爲されず來たうらみがあるのである。例へば俸給生活者、勞務者等の如き収入の明かなるものは、天引式に貯蓄せしめられてゐるのでムラが少ないのであるが、商人、自由業、その他個人營業者乃至は會社重役等の収入の明かでない職業の人人の間には甚しき不均衡があるのである。又居住分布別貧富差などにも適正な基準がなく、所謂目分量、推定であるため裕福な者の居住者の多い町内會はよいが、貧困者の多い町内會の如きは毎回一方ならぬ苦勞があるのである。又扶養家族の大小の如きも殆んど考慮せられず、町内會、常會組長等によつて適當に割當てられてゐるために、割當貯蓄完遂に困難を感じる者も少なくないと云ふ實狀である。

貯金が全く任意である場合は問題ではないが、今日の如く半ば義務化して來ると結果に於て不公平が續くと割當額完遂出來ぬ苦惱が、その人の生活全體に影響を及ぼすに至り、それが意識的に無意識的にいつの間にか國債消化、貯蓄

奨励への嫌氣となり、非協力となつて、種種の形を持つて現はれて來るような事があつては由由敷いである。故に指導者は誠に責任が重いのであり、充分意を用ひて、不公平のないようにせねばならない。此種國民運動は相當無理だと思はれる程の額であらうとも、それが誰もが同じ負擔が重いのであれば勵まし合ひこそすれ決して不平を言ふものではない。不平を云はしめるものは、不公平なる割當そのものにあると云ふことを指導者は強く知らねばならぬのである。

(4) 貯蓄標準の設定

以上の如き意味に於て、第一に既述の生活基準によつて、その生活基準額を収入から差引いた、貯蓄標準額を算出し、この標準によらしめることが必要である。斯くすることによつて不公平は最少限に止められるであらう。各人の所得の具體的査定については困難があるが、俸給生活者、勞務者の如き俸給賃金により収入の明かなる者の外は、大體の平均収入による以外に方法がないであらう。商人でも今日では査定は案外困難ではなく、むしろ會社重役、醫師の如き職業は困難を伴ふが、こうした場合は、推定額をいつも高いめにして査定すればよいであらう。若し不當に高いと言ふ申出があれば、始めて収入の内譯を請求し得るが故に、實際収入に近づけることが出来るのである。(少額では自分分は少額だと申出る人はいないからいつも高めがよいのである)又畫家音楽家俳優等の職業者は月收のムラの者が少くないがそうした場合はその者の生活態度、生活程度、家の大きさ、家具調度品等により、上中下の三段位に區別し、一〇〇圓のクラス、二〇〇圓のクラスと云ふ風に査定して割當るならば案外容易である。

今参考までに貯蓄國債割當基準表を示せば第一一六表(案)及附録(A)(B)(C)(D)(E)の如くである。これは家族全體の収入より基礎控除額(生活費)を差引きて、残りたる額に貯蓄率を乗じたものを月當り貯蓄割當額と見做したものである。

向第一一六表の基礎控除額は最低限の生活費と見做される額を参考として補正したものである。貯蓄率はその貯蓄割當額により多くしたり、少くしたりするようにする。又収入の増加に従つて貯蓄率の増加割合も多少の加減を加へることもよいであらう。今此貯蓄率によつて推計を試みると、先づ夫婦で収入一〇〇圓あるものは毎月七圓五〇錢づゝ貯蓄可能であり、夫婦に子女一人で収入一〇〇圓では毎月二圓貯蓄が可能である。

標準家族でみると一三〇圓収入者では毎月一圓、一五〇圓では六圓二五錢、二〇〇圓では二二圓五〇錢、三〇〇圓では七〇圓づゝ貯蓄が可能であることが知られるのである。而かも収入が大となるに従つて割當額が大となつてゐるために、生活費としての残額は無駄のない生活費としての額である。

尙此處で特に注意を喚起すべきことは、「貯蓄は消費でない」と云ふことである。この事は判り切つた事であるにかかわらず、何かしら貯蓄に對する考へ方が消極的になり勝ちであるが、貯蓄は不時の場合の備へでもあるのであるから此點改めて再認識することが必要であらう。云ふまでもなく、若し萬一病氣になつたり出産があつたり、不幸があつたりする場合は、全く安心して養生もし静養が出来るようにせんが爲でもあるのであるから、創意工夫をこらして、生活の改善をなし、生活費の合理的節減をなし貯蓄をせねばならぬのである。

實行に移せし結婚式の改善、宴會の廢止又は簡易化、諸會合(常會等も)標準化を行ひ、無駄を取り去る、遊樂旅行の禁止、轉廢業資金の貯蓄、冠婚葬祭時の祝金、見舞金、香奠等々を凡ての貯蓄にふり向けることによつて始めて戰爭が完遂されるのである。又貯蓄運動を通じ國民全體が貯蓄心の涵養ともなるのである。故に決戦下義務化された貯蓄の完遂のために國民全體が總力結集せねばならぬのである。

第117表 貯蓄割當基準率表 (俸給生活者・勞務者等勤勞生活者)

家族の全別 収入(月)	貯蓄割當額(月當)														
	70(＃)	80	100	130	150	180	200	250	300	350	400	450	500	600	700
家族人員	2.0	2.5	3.0	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	7.5	8.0	8.5	9.0
基礎控除	50.00	75.00	100.00	128.00	160.00	200.00	250.00	300.00	350.00	400.00	450.00	500.00	550.00	600.00	650.00
獨身者	4.00	7.50	10.00	13.00	16.00	19.00	22.00	25.00	28.00	31.00	34.00	37.00	40.00	43.00	46.00
夫婦	7.00	12.00	16.00	20.00	24.00	28.00	32.00	36.00	40.00	44.00	48.00	52.00	56.00	60.00	64.00
夫婦及扶養 家族一人	90.00	100.00	110.00	120.00	130.00	140.00	150.00	160.00	170.00	180.00	190.00	200.00	210.00	220.00	230.00
二人	110.00	125.00	140.00	155.00	170.00	185.00	200.00	215.00	230.00	245.00	260.00	275.00	290.00	305.00	320.00
三人	125.00	140.00	155.00	170.00	185.00	200.00	215.00	230.00	245.00	260.00	275.00	290.00	305.00	320.00	335.00
四人	140.00	155.00	170.00	185.00	200.00	215.00	230.00	245.00	260.00	275.00	290.00	305.00	320.00	335.00	350.00
五人	153.00	170.00	187.00	204.00	221.00	238.00	255.00	272.00	289.00	306.00	323.00	340.00	357.00	374.00	391.00
六人	160.00	177.00	194.00	211.00	228.00	245.00	262.00	279.00	296.00	313.00	330.00	347.00	364.00	381.00	398.00
七人	170.00	187.00	204.00	221.00	238.00	255.00	272.00	289.00	306.00	323.00	340.00	357.00	374.00	391.00	408.00
八人	180.00	197.00	214.00	231.00	248.00	265.00	282.00	299.00	316.00	333.00	350.00	367.00	384.00	401.00	418.00
九人	190.00	207.00	224.00	241.00	258.00	275.00	292.00	309.00	326.00	343.00	360.00	377.00	394.00	411.00	428.00
十人	200.00	217.00	234.00	251.00	268.00	285.00	302.00	319.00	336.00	353.00	370.00	387.00	404.00	421.00	438.00

上段が割當基準率、下段が割當額

附録 (A) 事業關係者 (會社重役地主家主等)

總收入額で大體の分類をして割當てる。尙大經營者中經營者小經營者の三大別にして大まかに課し、不平が出たとき始めて實収入の證明をもらひ、實收と査定額と相違ある場合訂正するのである。

小經營者		中經營者	
月收額	割當率	月收額	割當率
一五〇	一〇〇	七〇〇	五〇〇
二〇〇	一二五	一、〇〇〇	六五〇
二五〇	一五〇	一、二〇〇	七〇〇
三〇〇	二〇〇	一、〇〇〇	七〇〇
三五〇	二二五	一、〇〇〇	七〇〇
四〇〇	二五〇	一、〇〇〇	七〇〇
四五〇	二七五	一、〇〇〇	七〇〇
五〇〇	三〇〇	一、〇〇〇	七〇〇
	三二五	一、〇〇〇	七〇〇
	三五〇	一、〇〇〇	七〇〇
	三七五	一、〇〇〇	七〇〇
	四〇〇	一、〇〇〇	七〇〇
	四二五	一、〇〇〇	七〇〇
	四五〇	一、〇〇〇	七〇〇
	四七五	一、〇〇〇	七〇〇
	五〇〇	一、〇〇〇	七〇〇
	五二五	一、〇〇〇	七〇〇
	五五〇	一、〇〇〇	七〇〇
	五七五	一、〇〇〇	七〇〇
	六〇〇	一、〇〇〇	七〇〇
	六二五	一、〇〇〇	七〇〇
	六五〇	一、〇〇〇	七〇〇
	六七五	一、〇〇〇	七〇〇
	七〇〇	一、〇〇〇	七〇〇
	七二五	一、〇〇〇	七〇〇
	七五〇	一、〇〇〇	七〇〇
	七七五	一、〇〇〇	七〇〇
	八〇〇	一、〇〇〇	七〇〇
	八二五	一、〇〇〇	七〇〇
	八五〇	一、〇〇〇	七〇〇
	八七五	一、〇〇〇	七〇〇
	九〇〇	一、〇〇〇	七〇〇
	九二五	一、〇〇〇	七〇〇
	九五〇	一、〇〇〇	七〇〇
	九七五	一、〇〇〇	七〇〇
	一、〇〇〇	一、〇〇〇	七〇〇
	一、〇二五	一、〇〇〇	七〇〇
	一、〇五〇	一、〇〇〇	七〇〇
	一、〇七五	一、〇〇〇	七〇〇
	一、一〇〇	一、〇〇〇	七〇〇
	一、一二五	一、〇〇〇	七〇〇
	一、一五〇	一、〇〇〇	七〇〇
	一、一七五	一、〇〇〇	七〇〇
	一、二〇〇	一、〇〇〇	七〇〇
	一、二二五	一、〇〇〇	七〇〇
	一、二五〇	一、〇〇〇	七〇〇
	一、二七五	一、〇〇〇	七〇〇
	一、三〇〇	一、〇〇〇	七〇〇
	一、三二五	一、〇〇〇	七〇〇
	一、三五〇	一、〇〇〇	七〇〇
	一、三七五	一、〇〇〇	七〇〇
	一、四〇〇	一、〇〇〇	七〇〇
	一、四二五	一、〇〇〇	七〇〇
	一、四五〇	一、〇〇〇	七〇〇
	一、四七五	一、〇〇〇	七〇〇
	一、五〇〇	一、〇〇〇	七〇〇
	一、五二五	一、〇〇〇	七〇〇
	一、五五〇	一、〇〇〇	七〇〇
	一、五七五	一、〇〇〇	七〇〇
	一、六〇〇	一、〇〇〇	七〇〇
	一、六二五	一、〇〇〇	七〇〇
	一、六五〇	一、〇〇〇	七〇〇
	一、六七五	一、〇〇〇	七〇〇
	一、七〇〇	一、〇〇〇	七〇〇
	一、七二五	一、〇〇〇	七〇〇
	一、七五〇	一、〇〇〇	七〇〇
	一、七七五	一、〇〇〇	七〇〇
	一、八〇〇	一、〇〇〇	七〇〇
	一、八二五	一、〇〇〇	七〇〇
	一、八五〇	一、〇〇〇	七〇〇
	一、八七五	一、〇〇〇	七〇〇
	一、九〇〇	一、〇〇〇	七〇〇
	一、九二五	一、〇〇〇	七〇〇
	一、九五〇	一、〇〇〇	七〇〇
	一、九七五	一、〇〇〇	七〇〇
	二、〇〇〇	一、〇〇〇	七〇〇

上記割當額は標準家族として推計してあるので、家族が大となれば、多少の手加減をこれに加ふる必要があるであらう。

附録 (B) 商業者

a) 家族のみにて營業する者。

月收平均額	割當率 (月收に對して)
一〇〇圓以内	七・〇%
一〇〇圓—一五〇圓	一〇・〇
一五〇圓—二〇〇圓	一五・〇
二〇〇圓—三〇〇圓	二〇・〇
三〇〇圓—四〇〇圓	二五・〇
四〇〇圓—五〇〇圓	三〇・〇
五〇〇圓以上	四〇・〇

b) 家族以外の従業員を有する営業者前記基本額に従業員一人増す毎に次の如く加ふ。

従業員(20歳以下)	一人毎	(男)	(女)
同 (20歳以上)	四人迄一人毎	五,000	—
同	九人迄一人毎	一〇,000	五,000
同	(同)	一五,000	七,000
同	(同)	二〇,000	一〇,000

(註) 月収は毎年一月一六月、七月一二月の半期毎の營業成績により査定したる平均とす。

附録 (C) 開業醫及病醫院經營者

最低収入を月額二〇〇圓として基準をとり、次の如き割當率によること。

月 收 額	割當率 (月収に對して)
二〇〇圓—二五〇圓	一五・〇%
二五〇圓—三〇〇圓	二〇・〇%
三〇〇圓—四〇〇圓	二五・〇%
四〇〇圓—五〇〇圓	三〇・〇%
五〇〇圓—六〇〇圓	四〇・〇%
六〇〇圓—七〇〇圓	五〇・〇%

七〇〇圓—八〇〇圓	五五・〇%
八〇〇圓—一〇〇〇圓	六〇・〇%
一〇〇〇圓以上	六五・〇%

家族以外の従業員(醫師、藥劑師、看護婦、產婆等)ある場合は一人増す毎に次の割合で加算する。

一人より四人迄一人毎	一〇,〇〇〇
五人より九人迄一人毎	一五,〇〇〇
一〇人以上一人毎	二〇,〇〇〇

尙分院又は出張所を持つ場合はその事業場も加へ、尙一分院又は事業場毎に基本額に三〇圓を加ふ。

(註) 一人當り一〇圓と使用人を算出した基礎は最低限の看護婦でも一日二五〇錢當りとして一ヶ月七五圓、之れに食費その他を入れて諸雜費を加ふると一ヶ月一人當り一〇〇圓の収益を擧げねばならぬと見做し、その一割を見たものである。

附録 (D) 辯護士、辯理士、計理士等

此種自由業者の算定は困難であるが、然し大體經驗年數によるならば比較的収入割合が實際に近いものと考へられるので經驗年數に依ることにした。

經驗年數	辯護士	辯理士計理士
一—三	一〇,〇〇〇	七,〇〇〇
四—五	一五,〇〇〇	一〇,〇〇〇

第三節 各費目別生活指導

六—一〇	二〇,〇〇〇	一五,〇〇〇	四三〇
一一—一五	三〇,〇〇〇	二五,〇〇〇	
一六—二〇	四〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	
二〇年以上	五〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	

向事務所に辯護士、計理士、書記、給仕等を置く場合は次の如く加算すること。

	辯護士計理士	書記	給仕
一人—四人迄一人毎	一〇,〇〇〇	七,〇〇〇	五,〇〇〇
五人—九人迄一人毎	一五,〇〇〇	一〇,〇〇〇	七,〇〇〇
一〇人以上 一人毎	二〇,〇〇〇	一五,〇〇〇	一〇,〇〇〇

附録 (E) 農山漁村

農山漁村は世代永住者を主體とするが故に、自然公的負擔額の等級が出来てゐるのが普通であるから、總割當額のみを示し、各自は自治的に配分させるようにすることが最もよいであらう。

第六項 生活指導婦制を設置し全国的に配置せよ

(1) 生活指導の徹底には生活指導婦が必要である

生活の科學化と云ふも生活指導と云ふも、これを具體的に國民を指導し實踐せしむることは決して容易な事ではない。故にこれが徹底のためには、生活指導をするための組織化を行ふと同時に、その生活指導の尖兵としての第一線

に直接指導の任につく指導者をつくる必要がある。

生活指導の指導者は、保健知識を持った今日の保健婦に更に栄養知識と、消費經濟の知識とを兼ね備へた教育が加へられた程度のものである。こうした生活指導員を全國の町村單位に一名位、都市では町會單位に一名位の割合で全国的に配置し、以つて直接生活指導をするならば、我國民の生活改善、保健の向上、栄養の改善は待つべきものがあらうと信ずる。

(2) ドイツの生活指導

ドイツに於ける生活指導をみると實に積極的である。先づ負擔の公平化を圖るとか、子無税を取るとか、子女の扶助法を設けて、貧しい家庭を助けるとか、素質優秀な子供に對する教育扶助を行ふとか、國立家庭調整金庫を設立するとか、働く婦人のための托兒所を設けるとか凡ゆる方法が講じられてゐるのである。而かも凡てが積極的である。例へば托兒所にしても、その人が此の托兒所なら、可愛い自分の幼兒、兒童を預けてもよいと安心して預けられるような状態に於かれてゐる事である。否それのみではない。その母親は更にこうした機會を通じて育児上の注意を受けたりその他の保健知識を授けられて生活の科學化に役立つてゐるのである。

ドイツ婦人は又栄養知識があり、多種多様の料理を作る事が出来ると云はれてゐるが、これが又戦時下の營養生活を如何に助けてゐるか圖り知れないのである。

婦人勞働力の出し方又ドイツでは子供を持つ母親を職業につかしめるためには、宣傳局は出来るだけ各自の婦人がその能力に應じた仕事を得るように教育すると同時に、僅かの障害のために、勤勞出来ずに居る婦人に對しては、指導者によりその障害の除去に協力し、半日でも働けるようにしてゐることである。例へば子供のために出られ

ぬと云ふ婦人に對しては半日出來る婦人は半日、その子供を托兒所に置いて面倒をみるとか、或は幼稚園で母親の迎へるまで時を過させるのである。或は又借金づくめで家賃も支拂はずぐうたらな生活者等については監督者を指定し、家計整理まで指導するのである。家計のみならず子供等の問題まで解決する。勞賃等も全部本人に渡さず、監督者によつて家計を處理し、家庭は収入の残額で暮しを立てる事を覚えさせ、義務觀念が芽生へて來て始めて黨の教化手段を弛めるようにする。又酒呑みの如きは家族の扶養義務を忘れ勝であるが、之等に對しては警察の懲戒手段を以つて足れりとせず、再び之を正道にたち直らせ家族の暮しが保證されるように努力してゐる。

我國の生活指導も、指導者がこゝまで積極的にならなければならぬと思ふ。臺所が非能率、不潔であれば、先づ臺所に入つて臺所改善、榮養改善を指導し、清掃方面が不徹底であれば掃除の仕方、住み方の指導をし、家具の整理並べ方に至るまで指導する。病人が絶へぬとあれば何が原因かを究明し、これが治療に努めると同時に、豫防策を講じ、積極的對策指導をする。妊婦の保健指導、育児の具體的指導（乳のませ方、乳の作り方、その質、量に至るまで）をする等既述べた事項を具體的に手を取つて指導するならば相當の效果は期待出來るであらう。

以上の意味に於て生活指導婦の養成をなし、これを順次急を要する處から配置することである。

尙生活指導婦には女學校卒業程度のもを二ヶ年位の教育によつて達せられるであらう。（詳細は別の機會に譲る。）

第四節 生活の協同化社會化

日本は家族制度の國である。然し此家族は我々の一軒一軒が家族主義であると云ふだけではなく、我國は國民全體が又一大家族である。従つて相扶け合つて行くことは當然のことである。然るにいつの間にか自由主義的資本主義的

個人本位の思想が侵入するに従つて、一家族又は國全體が一大家族であると云ふ大切な點を忘れ、一家族本位の個人主義的家族主義が強く反映するに至り、協同的であつた生活も次第に個人本位になり、凡て金錢で解決のつくような生活組織に取つて代へられたのであるが、然し今こそ日本全體が一大家族であることの認識を新たにせねばならぬと同時に、その正しい認識の下に國民生活が一大家族としての實踐が爲されねばならぬ秋が來たのである。

生活の協同化、社會化が強く叫ばれるに至つてゐるが、未だ一般國民には此生活の協同化社會化は正しく理解されてゐないかの如くである。眞の日本の國民生活の姿は美しい扶け合ふ協同化の生活が古くから傳はつて來てゐるのである。これが資本主義自由主義思想の影響によつて次第に姿を消し、何處かにかくして仕舞つたのであるが、決してないのでなく、今日に於ても農村に於ては協同化された生活は農村から抜く事の出來ない大きな力となつて農村を美しいものにし、又強化してゐるのである。部落單位の冠婚葬祭を始め、農事の協同化（協同耕作、協同取入等）道路普請、協同薪山等數へ上げれば數限りなくある。之に反し、都市に於ては隣り合せて住居してゐても碌々口も聞かず、隣りの人の職業さへ知らぬと云つた現状であつた。然るに支那事變を契期として防空演習、出征兵士の歡送迎、銃後國民生活の刷新等の必要から隣組組織が促され、これが中心となつて、町會、市役所と順次系統的に連絡組織が完成し上意下達、下意上通、蔬菜魚類その他配給物資の配給等、消費者組織として、又國民生活組織として發達するに至つたので、漸く自由主義的生活觀も次第に矯正せられるに至り、日を追ふて生活觀の革新が遂げられる氣運に至つたのである。又消費規正の強化、切符制度の擴大、消費配給統制の強化に伴つて、極力協同で出來るものは協同により實施し、又協同購入、協同配給、協同作業、協同防衛、勤勞奉仕、協同献立、協同炊事、協同農園、協同農村托兒所等生活の協同化社會化は國民の生活基底である隣組、町内會を通じて次第に組織化されつゝあるのであるが、之れを

健全に育成するために努力せねばならない。

事實國民生活の標準化は勿論、防空、防火、増産、衛生、交通、配給等重要な生活事項の多くが、協同化を通じて始めて完成するものである。故に我國の國民生活には今後更らに更らに協同化社會化への組織化及その教育訓練をなすと同時に、協同施設の擴充等に力をいたし、國民生活の向上に役立てねばならぬ。又生活指導も個人本位でなくあくまで協同化社會化へ導くように指導するべきであらう。

著 者 略 歴

明治三五年神奈川縣秦野に生る。大正十五年三月日本大學政治科卒業、卒業後直ちに東京都社會局に入り、國民調査を擔當、爾來生計費問題、異常兒、精神病、アルコール、性病、結核等の社會疾患の研究に十餘年間専念して來たが、昭和十年日本能率聯合會に轉ずるに及んで生産管理、勞務管理、賃金問題の研究をも爲すに至り、更に昭和十六年七月勞働科學研究所に轉じたるも、引續き十八年間一貫して、國民生活問題に全力を傾注して來た。そしてその結晶として、「日本道德統計要覽」「我國の結核現状と對策」「我國の性病現状と對策」「最低賃金の基礎的研究」「國民生活費の研究」「その他合冊では「生産増強の方策」「今日の勤勞問題」「國民生活の課題」「勞働論(賃金問題)」等を公刊するに至つてゐる。

現在、勞働科學研究所員として生計賃金研究室主任の地位にある。

認承協文出
號390489あ



昭和十八年十二月三十日印刷
昭和十九年一月五日發行

（三、〇〇〇部）

國民生活費の研究

定價六圓
特別行爲稅相當額參拾錢
賣價六圓參拾錢
送料參拾錢

著者 安藤 藤 政吉

發行者 東京都麹町區三年町二
酒井 清 一

印刷者 東京都芝區南佐久間町一ノ三
萩 四 郎

印刷所 萩 印刷所
東京一三二

發行所 總町 酒井書店

東京都總町區三年町二番
電話振替東京一六二五〇〇番
會員番號一〇二五〇三番

元 給 配

日本出版配給株式會社
東京都神田區淡路町二ノ九

勳勞青年文庫

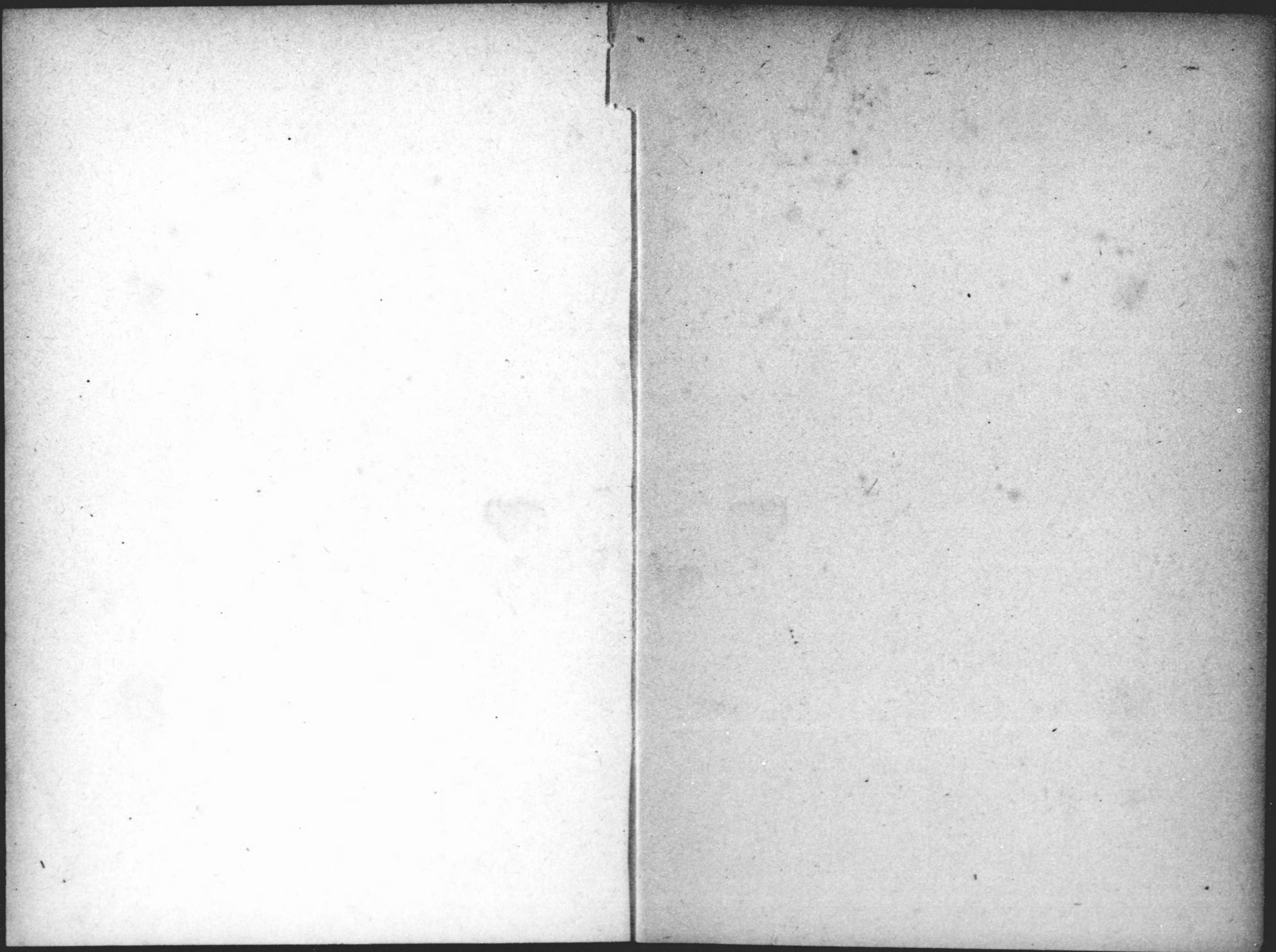
朝日新聞記者 寺田勳著	新聞の讀方・考へ方	價 .42
大日本産報會本部囑託 清水脩著	勳勞音樂の手引	價 .42
厚生省事務官 宮樞總一著	決戦と勳勞	價 .42
厚生省事務官 象子秀夫著	勳勞顯功章の話	價 .52
文報詩部會幹事 長田恒雄著	國民詩讀本	價 .52
毎日新聞參事 田村木國著	俳句入門讀本	價 .52
厚生省囑託 可知博一著	勳勞者禮法	價 .52
厚生省技師 石館文雄著	保健讀本	價 .52
栃木縣産報會主事 新里實三著	手紙の書方	價 .52

(送料 各册 4 錢)

行發店書井酒町麹

西	橋本重遠著	菊川忠雄著	權田保之助著	村島歸之著	三好豐太郎著
實著	勳勞應召	産業報國讀本	産業青年讀本	産業と結核	生産増強と厚生施設
國我勞資調整機構の發達	(國民徵用) 實際知識の				
價 一・一五 五〇	價 一・四 五〇	價 一・一五 五〇	價 一・一五 五〇	價 一・一五 五〇	價 二・一〇 五〇

行發店書井酒町麹



i.

31.11.16

